

2023年7月14日神戸税関～神戸港で観察した植物

作岡田弘

ハマヒサカキ（浜姫櫛）ツバキ科ヒサカキ属・別名イソシバ

浜に生えるヒサカキと言う意味で、山地に生えるヒサカキ同様、花が咲くとガス臭がたどよう、今回、税関の植え込み（右円内の様に）に使われていた、常緑小低木で温かい海岸沿いを好み、千葉以南～九州、琉球に分布、葉は丸みを帯びて2列に水平に広がる、表面は深緑色で光沢があり、縁は波状の鋸歯があるが葉の縁が裏側に反り返るので目立たない、乾燥や大気汚染にも強いので道路、工業地帯、オフィス等の緑化に使われる。*花期＝10～11月・近場では地下鉄服部緑地公園駅近くにある。



ハナハマセンブリ（花浜千振）リンドウ科ベニバナセンブリ属*花期＝6～7月

ハナハマの由来は判然とし、センブリは。千回振り出しても（振り出すとは、熱湯の中に薬草を侵して成分を溶かしこむ事）まだ苦いという事で、千振・故に、ハナハマセンブリもセンブリと同様、胃腸薬としての効用はあるようです。ギリシャ神話に登場する「ケンタロウス（半人半獣の種族）のケイロンがヘラクレスの放った矢傷を治すためにこの薬草を用いた」という伝説もある。地中海原産の1～2年草。茎は上部で良く枝分かれして先端に約8mmほどの5裂花を多数つける、葉は根出葉と茎葉がある、根出葉はロゼットにならない、茎葉は尖った倒披針形で全縁、無柄で対生、**センブリの花言葉は「癒す」**今回は帰途阪神高速道路下の僅かな空き地に群生していた。はて何人の人がきずいたか？



マメグンバイナズナ（豆軍配撫菜）アブラナ科マメグンバイナズナ属

名前に由来＝豆は小さい意味、軍配は相撲の行事が持っている軍配に種子の形が似ているので、撫菜は撫でたいほど可愛いと言う意味。纏めると、小さくて軍配に似た撫でたいほど可愛い草となります。北アメリカ原産の1年草又は越年草、茎は上部で枝分かれして曲がった毛が生える、葉は根出葉と茎葉がある、茎葉は互生する単葉で縁に鋸歯があるのと無いのがある。花は径3mmほどの4弁花を多数つける明治中期頃に渡来したと言われる***花言葉＝頑張って、健康、応援**最近、ドライフラワーにしての人気があるようです。



イヌムギ（犬麦）イネ科スズメノチャヒキ属*花期＝5～8月

名前の由来＝食用の麦と姿が似ているが食用にならないことから「役に立たない麦」で「イヌムギ」となった。植物名に動物の名が付けられているのは、人の役に立たない植物という意味でつけられている。明治元年に牧草として南アメリカから輸入、したのが野生化、乾燥した草地に生え秋に芽をだして株になり冬越する、根元が束に生育し草丈40～80cmに育つ、茎が先端に向かって垂れ下がる姿が特徴、多くは閉鎖花



ネズミムギ（鼠麦）イネ科ドクムギ属*花期＝4～7月

名前の由来＝イヌムギ同様、麦に似ているが食用にならない役立たずの麦で「ネズミムギ」となった。原産地は地中海で別名「イタリアングラス」と言われて、主にイタリアで牧草として栽培されている、日本も牧草として輸入したのが野生化、4月頃になると茎を伸ばし枝を出さずに小穂を直接付けます、小穂の数は15～25個で左右交互に互生、穂は長い、小穂の形状は扁平で芒（ノギ・殻などに生える針状の毛）があり、開花時には花粉を飛ばす、**イネ科花粉症の原因物質**



ウラジロチチコグサ（裏白父子草）キク科チチコグサモドキ属

名前の由来＝葉の表面に毛が少なく裏面に白い綿毛が密生しているから、ウラジロチチコグサはハハコグサの黄色の派手な花に比して、目立たず痩せた感じを父に見立てた説等、判然としません。南アメリカ原産の越年草、昭和40年代後半に知られるようになった。茎は基部からよく分枝して白い綿毛が密に生える、葉は、根生葉と茎葉がある、茎葉は互生で単葉、***チチコグサの花言葉＝父の愛情**



トウカエデ（唐楓）ムクロジュ科カエデ属*花期＝4～5月

名前の由来＝唐（中国）から来た、カエデはカエルの手が詠ってカエデになった1721年江戸幕府八代將軍吉宗が清国から送られてきた6本を御手植えしたと伝えられるトウカエデが東京浜離宮恩賜公園にある。雌雄同株で一つの花序（房状のもの）に2～3mmの雄花と雌花が混在した淡い黄色の5弁花を20個位咲く、特徴は葉は3つに切れ込み幹の皮がささくれ立つようにめくれている、紅葉が美しく公害にも強いので、街路樹、公園樹等に利用***花言葉＝豊穡**

